

社会技術研究開発事業 研究開発プログラム「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

平成21年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

1. 研究代表者：中込 秀樹（千葉大学 大学院工学研究科 教授）
2. プロジェクト企画調査の題名：「森とともに生きる山武」森林共生型社会システム構築に関する調査
3. プロジェクト企画調査期間：平成21年10月～平成22年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

本企画調査は、病気被害が拡大している山武市におけるサンプスギを基調とする森林を、地域に根ざした持続可能な森林に再生するための研究開発プロジェクトを提案するために、①地域の森林の実態と地域住民の意向の把握を踏まえた課題抽出、②地域における課題共有とそれに対する解決策の具体化、③森林管理経営および資源循環システムの成立要件の見極め、を行うものである。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

①地域の森林の実態と地域住民の意向の把握を踏まえた課題抽出については、協議会を中心に、地域の実態把握と、ワークショップ等による住民の意向把握が行われ、一般的現状把握が行われた。③森林管理経営および資源循環システムの成立要件の整理に関しては、サンプスギ被害材活用のための「炭化燃料化技術」に焦点が当てられ、考察がなされた。

しかし、全国に共通的に見られる、森林が抱える課題との差異等、山武独特の課題抽出と整理、分析を行うに至らなかった。②地域における課題共有とそれに対する解決策の具体化については、情報共有、キーパーソンの活用、社会システムと技術を大学がつなげること等の重要性が指摘されたことにとどまった。③については、①や②との関係がバラバラで、一般的なバイオマスエネルギーに関する工学的検討にとどまり、研究目標に沿った新たなシナリオ作成を行うものとしては十分ではない。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案にむけた準備状況

研究開発プロジェクト提案のためには、なお以下のような課題が残されていると考えられる。

- ・サンプスギの活用を本格化するための検討について、資源量調査から、地元ワークショップ、工学的検討まで、多面的に展開され、このような課題への新しいアプローチを体験されたことには意味があるが、いずれも初歩的段階にあるように思われ、これからのさらなる努力が期待される。
- ・今回の企画調査では、それぞれのグループの実施内容、成果の相互関連が十分でなく、企画調査全体の目標に沿ったとりまとめが十分でなかった。研究開発プロジェクト提案に向けては、それぞれのグループが、全体目標にどのように貢献していくのか、それぞれがどのように連携し合い研究開発を進めていくのか、実質的連携を可能とする体制にしていく必要がある。